

“Corruption in migration management: a network perspective”

「移民の管理における腐敗：ネットワークの視点」

Daniela Pianezzi, Giuseppe Grossi

Abstract

本論文では、公共ガバナンスの新形態としてのネットワークと汚職との関係性を研究する。本論では、アクター・ネットワーク理論を採用し、ヨーロッパ最大の難民収容施設である Mineo’s CARA の管理に関する政府契約の締結にまつわるイタリアの汚職事件を調査する。分析結果は、ガバナンス・ネットワークには、腐敗それ自体を、権力の濫用を急増させるネットワークに転化させる可能性があること、その転化の原因は、ガバナンス体制の特徴であるアクター、相互作用及び断片化の増加の結果として生じた不透明性であったことを示している。

Points for practitioners

本論文は、移民の流入に対応するイタリア政府によって実施されるガバナンス体制という臨界を分析することで、汚職防止戦略の有効性の向上に資する分析を行った。その結果、本論文は、政策立案者並びに国内及びヨーロッパの機関に対して現実の問題に直結する洞察を提供するものである。